

(13) 地域・社会との連携・協力

〔現状の説明〕

本大学における地域・社会との連携・協力に関わる活動は、すでに第2章(4)教育課程の④「生涯学習」で述べたように「公開講座」「教育面での現職教員の受け入れ」「教育関連職員の免許・資格に関する各種の講習会」がある。また、特に地域・社会との関わりでみた場合、以下の「ア. フレンドシップ事業」、「イ. 教員の地域・社会に向けての連携・協力」が挙げられる。

「ア. フレンドシップ事業」

この事業は、教員の養成段階において、本学学生が種々の体験活動等を通して、子供たちと触れあい、子供たちの気持ちや行動を理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目的とした事業である。文部省の新規事業として、本学では平成9年度から始まり、平成11年度に第3回目を迎えた。11年度のフレンドシップ事業は6つの事業からなる（平成11年度奈良教育大学フレンドシップ事業参照）。全事業の参加者は、子供達、保護者、県の先生方、大学教官、事務官を含め、のべ約6,500名と大規模なものである。

特に「青少年のための科学の祭典」（奈良大会）は47の実験工作演示と講演を行い、約6,000人の入場者があった。平成10年度に引き続き2年目であるが、科学離れを何とか克服したいとして開催したものである。スタッフも、小学校、中学校、高校、大学の理科の先生、奈良教育大学の学生、企業と総勢150人である。まさに地域の教育機関等の連携・協力のもと実施されている。

「イ. 教員の地域・社会へ向けての連携・協力」

本大学教官が地域連携に向けて行っている活動（平成7年以降過去5年以内、申告による）を、活動単位に分類すると、「[1] 全学的取り組み」、「[2] 付属施設」、「[3] 講座・グループ」、「[4] 教官個人」からなる。また、それらの活動単位についての活動内容は、「(1) 講演・講習会等」、「(2) 研究会・サークル活動等の指導・支援」、「(3) 審議会その他の団体の委員、役員、審判員等」、「(4) 相談活動」、「(5) 共同研究調査等」がある。

数値的に多い活動をみると「[4] 教官個人」による「(1) 講演・講演会等」や「(3) 審議会その他の団体の委員、役員、審判員等」、「[1] 全学的取り組み」による「(1) 講演・講演会等」（ただし先述した「公開講座」が概して該当する）、「[3] 講座・グループ」による「(5) 共同研究調査等」が挙げられる。

[4]-①をみた場合、人数的には38名が該当し、本学全教官（教授、助教授、講師、助手 平成11年度現在120名）の約31.7%である。奈良県内が多く、続いて近畿地区で個人的に講演活動を行っている。

次に、活動として数値的に2番目に多い[4]-③をみた場合、11名が該当している。具体的に審議会等での活動を取り上げると表13-1の通りである。

- ・ 国立大学協会教員養成特別委員会専門委員
- ・ 奈良県中高一貫教育研究会議座長
- ・ 大阪府学校教育審議会委員
- ・ 京都府小学校英語研究開発（文部省研究開発学校）専門委員
- ・ 障害児就学指導委員会委員
- ・ 家庭教育子育て支援事業の企画委員
- ・ 電話相談専門委員
- ・ 奈良県社会教育委員
- ・ 奈良県教育委員会学校健康安全センター研究委員会委員長
- ・ 奈良県・奈良市スポーツ振興審議会委員
- ・ 奈良県N I E推進協議会の発足に参加
- ・ 奈良県卓球協会常任理事
- ・ 奈良市卓球協会理事
- ・ 奈良県スポーツ医学専門委員
- ・ 静岡県文化財保護審議会委員
- ・ 南アルプスカモシカ保護地域指導委員
- ・ オオヤマレンゲ保全対策検討委員会委員
- ・ 奈良県環境影響評価制度研究会委員
- ・ 奈良県ニホンジカ保護管理検討委員会委員
- ・ アイドリングストップ検討委員会委員
- ・ 大台ヶ原トウヒ林保全対策検討委員会委員
- ・ 三重県ニホンザル保護管理検討委員会委員
- ・ 万葉ミュージアム建設企画運営委員／同・展示部門の音楽関係全般監修
- ・ 大野寺石仏保全修理委員会委員
- ・ 天然記念物妹山総合整備委員会委員
- ・ 奈良市防災会議専門委員
- ・ 奈良県防災会議専門委員
- ・ 地貫鉱物緊急調査委員会委員
- ・ 奈良市総合計画審議会委員
- ・ 奈良県林業技術開発推進会議委員

また、[3]-(5)の講座・グループによる共同研究については、表13-2の活動内容が挙げられる。

表13-2 共同研究

<ul style="list-style-type: none">・孔あき材の乾燥過程における半径方向4水分傾斜とひずみの変化・スギ心持ち柱材の乾燥・有限表示法による中空材の乾燥圧力の推定・大阪府教育委員会「学校教育自己診断試行」・小学校・中学校・高等学校の算数・数学教育の共同研究・算数・数学教育の国際共同研究・教育課程の開発的研究・大和郡山市外国人教育方針策定委員会・小学校社会科教育実践研究会・奈良県における不登校・いじめに関する教育臨床的研究・教育養成大学生の高齢者福祉観に関する研究 ― 介護体験の有無を指標として ―・奈良近辺の河川の環境科学的研究・世界遺産奈良公園をフィールドとする環境教育の研究・「明日香の工芸」調査
--

なお、上記[3]-(4)に該当するが、本大学において継続的に毎年実施されてきた活動として、数学教育講座がサポートする学生主体（主に数学教室関連の学生）による「夏の算数数学教室」を挙げることができる。この活動は、奈良教育大学が発足した昭和24年の翌年昭和25年の夏に第1回目の講習会を行って以来、半世紀を迎えている。夏休みの2週間（正確には現在は5日間、以前は6日間連続して）、近隣の小学生と中学生を対象とし、多い時は1,000名を超える時もあったそうだが、現在は300名前後に落ちついている。地域に開かれた大学の伝統ある活動として評価できる一方、継続的な実施において課題も毎年積み残している。

〔点検・評価〕

表13-3の平成11年度におけるフレンドシップ事業は、昨年度の課題を改善して、大きな成果をあげることが出来た。この事業に参加した学生は「種々の体験活動を通して、子供達とふれあい、子供達の気持ちや行動を理解し、実践的指導力の基礎を身につけることができた」と評価している。

教員の地域・社会に向けての連携・協力によって、大学教員自身の地域・社会への貢献度が増すとともに、教員の研究にとってもよいインセンティブが得られる。また、学生の教育や指導面での効果が大きいことも考えられる。ただ本学の場合、該当教員の数、活動内容もそれほど多いとは言えず、今後地域交流に向けて、積極的な姿勢も必要である。

〔将来の改善・改革に向けての方策〕

フレンドシップ事業を通して、今後さまざまな新しい試みを行い、新しい授業像の構築、地域における教育力の創造を推進していくことが求められる。また、教員自らの地域社会に向けての連携・協力を活性化するためには、教育・研究面での多忙性を援助する方途とともに、地域交流に対する業績評価を高めるシステムも肝要である。このことは、学生側の学外活動にも該当し、ボランティア活動や学外学習の単位化などによって、生涯学習の場である地域社会活動に対する意識・関心の高揚も課題となってくる。

表13-3 ア. 平成11年度 奈良教育大学フレンドシップ事業

事業名	内容
顕微鏡・星座観察	<p>・マイクロコース（顕微鏡観察） 実施時期：7月22日（木）、23日（金） 実施方法：顕微鏡を用いて観察を体験する。 場 所：奈良教育大学 地学実験室、電子顕微鏡室 対 象：小学生高学年</p> <p>・コスモコース（星座観察） 実施時期：7月26日（月）～27日（火） 実施方法：天体望遠鏡を用いて観察を体験する。 場 所：奈良教育大学 地学実験室、宇治市総合野外活動センター 対 象：小学生高学年及び中学生</p>
君もプレゼンテーション ・ディレクター	<p>実施時期：8月5日（木）、6日（金） 実施方法：各グループごとに「気になること」「見つけたこと」「言いたいこと」をテーマにドラマ製作、ドキュメンタリー制作、インターネット上のマガイイ情報の製作を行う。 場 所：奈良教育大学附属教育実践研究指導センター 対 象：小学生高学年及び中学生</p>
夢化学と21世紀 ー理科と工作を楽しもうー	<p>実施時期：8月6日（金） 実施方法：理科実験と化学工作を生徒たちに行わせ、理科に対する興味・関心を引き出す。中学生の部、高校生の部に分けて実施。 場 所：奈良教育大学 化学実験室、生物実験室、地学実験室 他 対 象：中学生（教諭又は保護者同伴）、高校生</p>

<p>わくわく自然観察</p>	<p>実施時期：8月23日（月）～26日（木）（3泊4日） 実施方法：本学附属自然環境教育センター奥吉野実習林に宿泊し、自然林、原生林等からなる実習林を散策し、動物・植物・昆虫を観察する。 場 所：奈良教育大学 附属自然環境教育センター奥吉野実習林（吉野郡大搭村） 対 象：小学生高学年</p>
<p>青少年のための科学の祭典</p>	<p>実施時期：10月23日（土）、24日（日） 実施方法：多くの実験コーナーを設け、簡単な実験や科学おもちゃの製作を子供たちに行わせる。 （空気砲、水ロケット、風船通信など） 場 所：奈良教育大学 山田ホール 対 象：小学生・中学生・高校生 ※参加自由</p>
<p>紙芝居製作</p>	<p>実施時期：8月27日（金）、10月30日（土） 実施方法：地域に伝わる民話や伝説をもとに、紙芝居を製作し、紙芝居発表を行う。 場 所：奈良教育大学 学生会館、大宇陀町立守道小学校 対 象：町立守道小学校全児童</p>

共催：奈良県教育委員会／奈良市教育委員会／大宇陀町教育委員会／日本化学会近畿支部
 化学工業会関西支部／夢・化学21－実行委員会／日本物理学会近畿支部／科学技術
 庁／(財)日本科学技術振興財団・科学技術館